



EDAストレージの概要

Workload Factory for NetApp Console

NetApp
October 07, 2026

目次

EDAストレージの概要	1
Workload Factory for EDA の概要ダッシュボードについて説明します	1
概要	1
ダッシュボードコンポーネント	1
SSD容量管理	2
スループット管理	3
ファイルシステムの柔軟性に関する推奨事項	4
関連情報	4
Workload Factory for EDAで概要ダッシュボードをアクティブ化する	5
開始する前に	5
ダッシュボードをアクティブ化する	5
次の手順	6
Workload Factory for EDA の概要ダッシュボードを使用する	6
開始する前に	6
ダッシュボードをフィルタリングする	6
クラスタの健全性ステータスを表示する	7
容量またはスループットに関する推奨事項を表示して適用する	7
SSD管理モードを変更する	8
スループット管理モードを変更する	8
一括編集管理パラメータ	9
容量の傾向と意思決定ポイントを分析する	9
クラスタテーブルを使用する	10
ベストプラクティス	10
関連情報	11

EDAストレージの概要

Workload Factory for EDA の概要ダッシュボードについて説明します

概要ダッシュボードを使用すると、IT 管理者は複数の FSx for ONTAP ファイルシステムにわたる EDA ワークロードを 1 か所で監視できます。これを使用すると、システムの健全性や使用状況をすばやく確認したり、新しいボリュームやジョブの配置場所を選択したり、移動が必要なボリュームや SVM を見つけたり、容量やスループットを増やすべき時期を確認したりできます。

概要

概要ダッシュボードは、設定済みのAWS認証情報に関連付けられたすべてのFSx for ONTAPファイルシステムのCloudWatchメトリクスを収集します。

内容は以下の通りです：

- ・ クラスターの健全性ステータス：上部の概要には、レイテンシイベント、SSDの使用状況、スループットモードのステータス、容量に関する推奨事項、およびファイルシステム全体にわたるONTAP EMSイベントが表示されます。
- ・ クラスターテーブル：各クラスターの使用状況とパフォーマンスを表示する検索可能なテーブル。データのフィルタリングや並べ替え、ページ間の移動、CSV ファイルとしてのエクスポートが可能です。

これはあなたに役立ちます：

- ・ 新しいボリュームを配置し、ワークロードのバランスを再調整する
- ・ 容量またはスループットの拡張を計画する
- ・ 大規模なクラスターの健全性を監視する
- ・ ボリューム配置について十分な情報に基づいた意思決定を行う
- ・ 容量限界に近づいているクラスタを特定する

ダッシュボードコンポーネント

クラスタのヘルスステータス

クラスターの状態は、選択したファイルシステム全体のアクティビティを簡単に確認できる機能です。これは、少なくとも 1 つの FSx for ONTAP リンクがファイルシステムに接続されている場合にのみ表示されます。

健康ステータスには、次の領域が含まれます。

レイテンシ

選択したファイルシステムで検出されたレイテンシイベントの数を表示します。この情報は、レイテンシ監視が有効になっている場合にのみ表示されます。

ファイルシステムの柔軟性

- **SSD容量**：SSD容量の管理に「Automate」、「Recommend」、「None」のいずれかを使用しているファイルシステムの数を表示します。
- **スループット**：スループットの管理に「自動化」、「推奨」、または「なし」を使用しているファイルシステムの数を表示します。

ONTAP イベント

検出されたEMSイベントの数、容量、可用性および保護、セキュリティおよびその他に分類して表示します。

クラスタテーブル

クラスタテーブルには、アクティブなリージョンとAWSアカウントの選択に基づいてフィルタリングされた各FSx for ONTAPファイルシステムの詳細なビューが表示されます。データはCloudWatchメトリックから収集されます。

この表を使用して次の操作を実行します：

- 容量制限に近づいているファイルシステムを特定する（SSD使用率列）
- プロビジョニングされたスループット SKU とスループット需要を比較します（スループット使用量 P99 列）
- 複数のクラスタ全体でパフォーマンス指標を追跡
- リンク設定ステータスの確認（関連リンク列） - 接続の有効性は毎日検証されます
- パラメータを一括更新する複数のクラスタを選択してください

ファイルシステムを選択すると、クラスタ情報、SSD容量値、SSD Capacity Over Timeグラフなど、クラスタの詳細が表示されます。

SSD容量管理

管理モード

通知のみ（推奨モード）

Workload Factoryは、SSDの使用状況を分析し、容量を増やすべきタイミングを提案します。これらの提案を検討し、適用するかどうかを決定します。これにより、自動分析のメリットを享受しながら、容量変更を完全に制御できます。

自動化

Workload Factoryは、使用量が設定された制限に達すると、自動的にSSDの容量を追加します。これは自動的に処理されるため、手作業は必要ありません。これは、自動管理を好む環境に適しています。

なし

SSD容量管理を有効にしていない場合、システムは容量に関する推奨事項を提供したり、自動的なアクションを実行したりしません。容量を自分で管理したい場合は、このオプションを使用してください。

SSD管理パラメータ

パラメータは、容量管理システムがSSDの使用状況を分析し、それに基づいてどのような動作を行うかを制御

します：

しきい値（10～90%）

SSDの使用率のうち、容量推奨や自動化アクションがトリガーされる割合。例えば、しきい値が80%の場合、SSDの使用率が80%に達したときに推奨事項やアクションが実行されます。この設定は、推奨モードと自動化モードの両方で利用可能です。

Lookback（1～200時間）

過去のSSD使用パターンを分析するために使用される期間。ルックバック期間が長いほど、容量に関する意思決定のための履歴コンテキストが多く提供されます。Automateモードでのみ使用できます。

Lookahead（1～200時間）

将来の容量ニーズを予測するために使用される期間。先行期間が長いほど、容量の拡張に向けてより先の将来を計画します。Automateモードでのみ使用できます。

これらのパラメータは、ファイルシステムごとに個別に設定することも、一括編集機能を使用して複数のファイルシステムに同じ設定を適用することもできます。

スループット管理

1つまたは複数のファイルシステムに対して、エラスティックスループット増加の動作を設定できます。

管理モード

通知のみ（推奨モード）

Workload Factoryはスループットの負荷を評価し、適用すべき推奨事項を提供します。

自動化

Workload Factoryは、設定された条件が満たされると、スループットを自動的に増加させます。

なし

スループット管理を有効にしていない場合、システムは推奨事項を提示したり、自動的なアクションを実行したりしません。容量を自分で管理したい場合は、このオプションを使用してください。

スループットパラメータ

スループット設定ダイアログには以下が含まれます：

- 利用率しきい値（50～100%、デフォルトは80%）：推奨事項または自動化をトリガーするスループット利用率。

高度なスループットパラメータは、展開可能な 詳細設定 セクションで確認できます。

- 評価期間（時間）（12～72時間、デフォルト24）
- **Breached metrics (%)**（デフォルト66%）：違反を判断するためのパーセンテージしきい値
- 連続違反時間（時間）（1～5時間、デフォルトは2）
- 連続違反率（%）（デフォルト95%）
- 最小遅延時間（ミリ秒）（デフォルト：10 ms）

- 最大スループット**SKU**（デフォルト：なし）

ファイルシステムの柔軟性に関する推奨事項

Workload Factory が自動化モードまたは推奨モードの場合、ONTAP ファイルシステム用の各 FSx を自動的にチェックし、容量推奨アルゴリズムを実行します。システムは定期的にスキャンを行い、SSD の容量やスループットを調整する必要があるかどうかを確認します。

推奨事項が特定された場合：

- Workload Factoryの通知設定に基づいて、即座に通知が届きます。
- クラスターテーブルをフィルタリングして、推奨事項のあるファイルシステムを特定します。
- インターフェースには、現在有効な推奨事項があるファイルシステムの総数が表示されます。

推奨事項では、提案された変更とその理由について説明しています。例：ファイルシステムSSDの使用パターンに基づいて、SSDのサイズを増やすことを推奨します。

ストレージ容量に関するイベント（推奨事項、容量増加の成功、警告アラート、容量チェックまたは容量増加操作中のエラーなど）について通知が送信されます。エラー通知には、権限不足、ファイルシステムの更新が既に進行中、最近のストレージ変更後のAWS待機期間、最大容量への到達、またはCloudWatchデータの利用不可など、原因が説明されています。

容量に関する決定ポイントについて

SSD使用状況グラフは、システムが容量に関する推奨事項を提示したり、自動的なアクションを実行したりした時点を示します。これらのマーカーは、容量管理アルゴリズムが時間の経過とともにどのように動作したかを示しています。

推奨事項の決定ポイント

システムがSSDの容量追加が必要であることを検出した際に表示されます。容量が増加されていない場合、これらのポイントは30分ごとに表示される可能性があります。グラフには、可能な限り各決定ポイントが表示されます。選択した時間範囲が密集しすぎている場合、ポイントはグループ化されます。

自動化の意思決定ポイント

自動化システムがSSD容量を増やそうとした際に表示されます。アクションが成功したか失敗したかを示します。

SSD使用履歴グラフを使用して、次の操作を実行できます。

- ストレージサイズを変更する必要がある頻度を確認してください
- 自動化モードと推奨モードのどちらがご利用パターンに適しているかを判断してください。
- 繰り返し発生するストレージ不足を特定する
- 将来のストレージニーズを、時間の経過に伴う成長に基づいて計画します。
- 自動化の試みが失敗した理由を調査する

関連情報

- ["概要ダッシュボードを有効にする"](#)

- ["概要ダッシュボードを使用する"](#)

Workload Factory for EDAで概要ダッシュボードをアクティブ化する

概要ダッシュボードをアクティブ化して、FSx for ONTAP ファイルシステムの CloudWatch メトリクスの収集を開始します。ダッシュボードでは、クラスターの状態、容量、スループットを1か所で確認できます。

開始する前に

ダッシュボードを有効化する前に、以下の要件を満たしていることを確認してください。

表示権限を持つ **AWS** クレデンシャル

Workload FactoryでAWS認証情報を設定する際には、一般ストレージに対して少なくとも読み取り（表示）権限を付与する必要があります。_表示、計画、分析_の認証情報は、CloudWatchメトリクスに必要な読み取り権限が含まれていないためサポートされていません。

閲覧権限を持つ認証情報を設定していない場合は、「概要」タブを開いたときにAWS認証情報設定ページにリダイレクトされます。

AWS 認証情報をまだ設定していない場合は、["AWS認証情報を追加する"](#)を参照してください。

ダッシュボードをアクティブ化する

Workload Factory が閲覧権限を持つ認証情報を検証した後、ダッシュボードをアクティブ化して、FSx for ONTAP ファイルシステムの CloudWatch メトリクスの収集を開始します。



同意いただいた後、指標の収集には少々時間がかかる場合があります。ダッシュボードは、最初の収集が進行中であることを通知します。

手順

1. ["NetApp Console"](#)にログインします。
2. メニュー  で、ワークロード > **EDA** を選択します。
3. * Overview *タブを選択します。
4. 表示権限を持つ認証情報が検出されない場合は、*認証情報の追加*を選択し、プロンプトに従って表示権限を持つ AWS 認証情報を設定します。次に、*概要*タブに戻ります。
5. FSx for ONTAP ファイルシステムに対して収集される CloudWatch メトリクスについて説明している同意プロンプトを確認します。
6. ダッシュボードをアクティブ化し、メトリックの収集を開始するには、* Activate * を選択します。

結果

Workload Factory は、AWS 認証情報にリンクされているすべての FSx for ONTAP ファイルシステムの CloudWatch メトリクスの収集を開始します。メトリクスが利用可能になると、ダッシュボードに反映されま

す。データ収集が進行中の間は、通知が表示されます。

次の手順

ダッシュボードを有効化すると、以下の操作が可能になります：

- "概要ダッシュボードを使用する"クラスタの健全性と容量を監視
- "SSD容量管理モードを有効にして構成する" (Recommend、Automate、またはNone)
- "スループット管理モードを有効にして構成する" (Recommend、Automate、またはNone)
- 特定のリージョンまたはAWSアカウントに絞り込むためのフィルターを設定します

Workload Factory for EDA の概要ダッシュボードを使用する

概要ダッシュボードを使用して、FSx for ONTAP ファイルシステムの健全性と容量を確認します。データをフィルタリングしたり、容量に関する推奨事項を確認したり、SSDとスループットの設定を調整したり、パフォーマンスの傾向を分析したりすることで、ボリュームの配置場所や容量を拡張するタイミングを決定するのに役立ちます。

開始する前に

ファイルシステムを監視するために使用する前に、"概要ダッシュボードをアクティブ化しました"を実行しておく必要があります。

ダッシュボードをフィルタリングする

ダッシュボード上部のフィルターを使用して、特定のファイルシステムを表示できます。フィルターは、レイテンシー、使用率、ONTAP イベントセクション、およびクラスターテーブルに適用されます。

手順

1. "NetApp Console"にログインします。
2. メニュー  で、ワークロード > **EDA** を選択します。
3. * Overview *タブを選択します。
4. 利用可能なフィルタを使用して、表示を絞り込みます。
 - **AWS** アカウント：設定済みの認証情報に関連付けられている1つ以上のAWSアカウントでフィルタリングします
 - 認証情報：複数のAWS認証情報を設定している場合は、特定の認証情報でフィルタリングしてください
 - リージョン：1つ以上のAWSリージョンでフィルタリングします
5. フィルターの選択を更新すると、一致するファイルシステムのみが表示されるように、すべての情報が更新されます。

クラスタの健全性ステータスを表示する

ダッシュボードの上部には、選択したファイルシステムの状態とアクティビティの概要が表示されます。これは、少なくとも 1 つの FSx for ONTAP リンクがファイルシステムに接続されている場合にのみ表示されます。

タスク概要

クラスタの健全性ステータスには、次の主要な領域が含まれます。

- レイテンシ：検出されたレイテンシイベントの数
- ファイルシステムの柔軟性：
 - **SSD容量**：SSD容量の管理に「Automate」、「Recommend」、「None」のいずれかを使用しているファイルシステムの数を表示します。
 - **スループット**：スループットの管理に「自動化」、「推奨」、または「なし」を使用しているファイルシステムの数を表示します。
- **ONTAP** イベント：カテゴリ別（容量、可用性と保護、セキュリティ、その他）のEMSイベント数

手順

1. ダッシュボード上部のクラスタの健全性ステータスを確認します。
2. レイテンシイベントを表示するには：
 - ***Review***を選択して***Latency***タブに移動します
 - レイテンシ監視が設定されていない場合は、**Configure** を選択してレイテンシのしきい値を設定してください

レイテンシ監視の詳細については、"[レイテンシー監視の設定](#)"を参照してください。

3. FSx for ONTAP ファイルシステムの ONTAP イベントを表示するには、**Review** を選択します。

ONTAP イベントビューカードには、カテゴリ別（容量、可用性と保護、セキュリティとその他）の EMS イベント数が表示されます。監視対象の EMS イベントの全リストについては、"[ONTAP CLI ドキュメント](#)"を参照してください。

容量またはスループットに関する推奨事項を表示して適用する

Workload Factory は、各 FSx for ONTAP ファイルシステムに対して推奨事項を自動的に実行します。クラスターテーブルをフィルタリングすることで、推奨事項があるファイルシステムを見つけることができます。

手順

1. 「クラスター」テーブルで、関連する時間または詳細の列でフィルタリングします。

容量またはスループットに関する推奨事項が記載されているファイルシステムは、表の上位に表示されます。

2. クラスタの詳細を開くには、表からファイルシステム名を選択してください。
3. 推奨事項とグラフを確認してください。

この勧告では、提案された変更内容とその理由について説明しています。例：ファイルシステムSSDの使用パターンに基づいて、SSDサイズを増やすことをお勧めします。

このグラフは、現在の利用状況と過去の傾向を並べて示しています。

4. グラフの右上で、表示期間を変更する時間範囲を選択してください。

グラフには、推奨決定ポイントと自動化決定ポイント（自動化モードが有効になっている場合）も表示されます。任意の決定ポイントにカーソルを合わせると、その時点での容量の拡張に関する推奨事項または自動化アクションの詳細が表示されます。

5. 推奨事項を適用するには、推奨事項メッセージに記載されているガイダンスに従ってください。

SSD管理モードを変更する

各ファイルシステムについて、SSD容量の管理方法を選択します。手動による推奨設定を受け取るか、自動スケールリングを許可するかを選択できます。

手順

1. Clustersテーブルでファイルシステム名を確認します。その横にある **...**を開き、*Change SSD capacity management*を選択します。
2. 「SSD容量管理を有効にする」を選択し、「適用」を選択します。
3. お好みのモードを選択してください：
 - 通知のみ（推奨モード）
 - 自動化
4. SSD容量管理パラメータを設定します：
 - しきい値（%）：推奨事項をトリガーするSSD使用率
 - ルックバック（%）：分析対象となる過去の使用データ期間
 - 将来予測（%）：将来の容量計画における予測使用量
5. 「適用」を選択します。

結果

ファイルシステムはすぐに新しいモードに切り替わります。「推奨」または「自動化」を選択した場合、システムは設定された内容に基づいてストレージ容量を分析し、判断を下します。

スループット管理モードを変更する

各ファイルシステムについて、スループットの増加をどのように管理するかを選択してください。

手順

1. *概要*タブで、「クラスタ」テーブルから1つ以上のファイルシステムを選択します。
2. 「スループット管理の変更」を選択します。
3. *スループット管理を有効にする*を選択し、次に*適用*を選択します。
4. お好みのモードを選択してください：
 - 通知のみ（推奨モード）
 - 自動化

5. ダイアログで、スループット管理パラメータを設定します：

- 評価期間（時間）：スループットパターンを分析する期間
- 違反指標（％）：違反を判断するためのパーセンテージしきい値
- 連続違反期間（時間）：措置が講じられるまでの連続違反の期間
- 最小レイテンシ（ms）：スループット増加を決定するために使用されるレイテンシのしきい値
- 最大スループット（SKU）：許可される最大スループット SKU

6. 「適用」を選択します。

結果

選択されたファイルシステムは、直ちに新しいスループットモードに切り替わります。

一括編集管理パラメータ

複数のファイルシステムの設定を一度に変更することで、クラスター全体に同じ設定を適用できます。

手順

1. **Overview** タブから、表内で編集したいファイルシステムを選択します。



個々のファイルシステムを選択することも、ヘッダーのチェックボックスを使用して表示されているすべてのファイルシステムを選択することもできます。

2. 表の上にある「SSD容量管理の変更」または「スループット管理の変更」を選択します。

3. お好みのモードを選択してください。

4. 編集ダイアログで、必要に応じてパラメータを調整してください。

各パラメータフィールドには、その目的と有効範囲を説明するツールチップが含まれています。このダイアログには、選択内容に基づいた現在の値またはデフォルト値が表示されます。

5. *適用*を選択すると、選択したすべてのファイルシステムに変更が適用されます。

結果

選択されたすべてのファイルシステムのパラメータが更新されます。推奨モードまたは自動化モードのファイルシステムは、新しいパラメータを分析および意思決定に即座に使用します。

容量の傾向と意思決定ポイント进行分析する

SSD使用状況グラフを使用して、ストレージ使用量が時間とともにどのように変化するかを確認し、パターンを見つけてください。

タスク概要

グラフ上の決定点は、次の時点を示します：

- 推奨決定ポイント：容量推奨アルゴリズムにより、追加のSSD容量が必要であることが判明しました。
- 自動化の決定ポイント：自動化システムはSSD容量を増やそうとしました。これらのポイントは、その操作が成功したか失敗したかを示しています。

手順

1. 「概要」タブから、表のファイルシステム名を選択します。
2. SSD使用状況グラフで過去の容量推移を確認してください。
3. 異なる期間を選択して、さまざまな期間における容量の動作を確認できます。
4. グラフ上の決定ポイントにカーソルを合わせると、特定の時点における推奨事項や自動化アクションの詳細が表示されます。
5. グラフから得られる知見を活用して、次のことを行います。
 - 容量調整がどのくらいの頻度で必要になるかを理解する
 - 自動化モードと推奨モードのどちらがワークロードパターンに適しているかを評価してください。
 - 繰り返し発生する容量制約を特定する
 - 成長傾向に基づいて将来の容量ニーズを計画する
 - 自動化の失敗に関するトラブルシューティング

一般的な障害原因には次のものがあります：AWSの権限が不十分、ファイルシステムの更新がすでに進行中、過去6時間以内にストレージが変更された、SSDの最大容量に達した、またはCloudWatchの指標が利用できない。

クラスターテーブルを使用する

クラスターテーブルには、パフォーマンスおよび使用状況のメトリクスとともに、各 FSx for ONTAP ファイルシステムの詳細ビューが表示されます。

手順

1. * Overview * タブから、クラスターテーブルを確認します。
2. 検索ボックスを使用して、名前で特定のファイルシステムを検索します。
3. データをソートするには、列ヘッダーを選択します。
4. *SSD使用量*を使用して、容量制限に近づいているファイルシステムを特定します。
5. *スループット使用量 (P99) *を使用して、スループットの需要とプロビジョニングされたスループットSKUを比較します。

計算の詳細については、スループット列のヘッダーにカーソルを合わせてください。

6. 列をカスタマイズするには、列設定アイコンを選択し、表示する列を選択します。
7. データをエクスポートするには、エクスポートアイコンを選択してCSVファイルをダウンロードします。

ベストプラクティス

概要ダッシュボードを使用する際は、以下の推奨事項を考慮してください：

- 定期的な監視：ダッシュボードを頻繁に確認し、問題になる前に傾向を把握しましょう。
- 明確なしきい値を設定する：ワークロードと容量計画に合ったSSD使用率のしきい値とスループットパラメータを選択します。
- フィルターを使用する：地域とアカウントのフィルターを適用して、確認したいインフラストラクチャの

部分に絞り込みます。

- 推奨事項をすばやく確認：クラスターテーブルをフィルタリングして、容量またはスループットの推奨事項があるファイルシステムを見つけます。容量不足にならないよう、確認して適切な対策を講じてください。
- 適切なモードを選択してください：容量やスループットの変更を自分で承認する場合は、**Recommend** モードを使用してください。システムに容量やスループットを自動的に管理させたい場合は、**Automate** モードを使用してください。
- 意思決定ポイントを確認する：容量グラフ上の意思決定ポイントを確認して、システムがどのように意思決定を行っているかを把握し、設定がニーズに合っていることを確認してください。
- 一括編集: 多数のファイルシステムを管理する場合は、一括編集を使用して設定の一貫性を維持してください。

関連情報

- ["概要ダッシュボードについて"](#)
- ["概要ダッシュボードを有効にする"](#)
- ["レイテンシー監視の設定"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。